

「令和4年 今年の漢字 “戦” についての考察」

一月討論メモ

令和5年1月17日

1. 当月は昨年末に発表された今年の漢字 “戦”について、森田がプレゼンテーションを行い、日本人がどんな気持ちからこの字を選んだのかを考察してみました。

日本漢字能力検定協会によると、昨年、恒例の“今年の漢字”に選ばれたのは、応募総数二十万票余りの内の4.85%を占めた「戦」でした。

ウクライナ戦争、安倍元総理の暗殺など殺伐とした年でしたが、世界一の“非戦国家”日本の国民はどんな思いで「戦」を選んだのでしょうか。

戦後、交戦権が認められない憲法をいただくことになった日本人にとって「戦」は何を意味するのか、HPに掲載済みのレジメに沿って、戦後の歴史を振り返りながら考えてみることにしました。

2. 引き続き出席者8名の自由な討論に入り、下記のような意見が出された。

- ・交戦権を認めない憲法を占領軍に押し付けられたと言うが、憲法改正はやればできることだ。七十数年やってこなかった日本人が悪い。
- ・天皇制の廃止で脅かされていたので、占領軍の思惑通りの憲法を受け入れざるを得なかったのではないか。
- ・戦後の混乱、多忙の中で、国民の意識が、憲法まで及んでいなかったのではないか。
- ・日米戦を通じて、米国が最も恐れたのは、日本人の戦意であり、驚異的な自己犠牲の精神だ。戦後の占領軍の統治は、日本人から戦意を抜くことだった。
- ・ペリリュー島やフィリピンのマバラカット飛行場などの戦跡に米軍が日本人の勇気を称える記念碑を建立している。
- ・占領軍の日本統治政策は寛大で有難かった。
- ・しかし、日本の歴史、地理の教育を禁じ、神道、武道も禁じて日本人の精神を貶め

ようとしたのは、許しがたい重大犯罪だ。

- ・秘かに行っていた検閲もひどい政策だ。
- ・あまり知られていないが、戦前、戦中の良書 8 千冊余りを焚書し、日本人の目に触れないようにして、思想の断絶を目指す大罪も犯している。
- ・米国の本まで、日本では出版禁止にしたものもある。
- ・占領軍は当初、神道を目の敵にしたが、神道は奥が深くよく理解できないので、軍国主義を悪玉にした。これに日本の左翼が相乗りした。
- ・日本人は骨抜きにされ、米国の属国になっている。
- ・軍隊がタブー視されるようになった。
- ・未だに国軍はなく、自衛隊と称している。

- ・日米安保で、日本は本当に守られるのか。
- ・高齢者の間では、父親の戦死など戦争被害が強烈に残っており、占領軍が自由の兵士に見えたのではないか。
- ・若者の間では、安保意識が高まってきている。

- ・第二次大戦の敗戦国の戦後は、イタリア、ドイツ、日本で差はあるのだろうか。
- ・ドイツはいち早く自己反省し、憲法も何度も改正しながら、普通の国になっている。
- ・ドイツはワイツゼッカーの反省演説が有名だが、実際にはヒトラーとナチスに罪をかぶせて、ドイツ国民は反省していないとの批判もある。
- ・戦後のドイツは日本同様に骨抜きにされたのではないか、現在のウクライナ戦争でも米英が戦争を煽る一方で、ドイツの存在感が全くない。なぜ停戦に動かないのか。

・孫氏の兵法は、
国民の安全を守るためなら、どんな手段でも使え、相手をだましてみ良い、
武力の行使は互いの損失が大きいので、最後の手段にせよ、
争いがあれば強い方に味方せよ、
等合理的な教えだ。

- ・防衛費を GDP の 2%にするといい、金額ばかりが先行しているが、中身の吟味が先ではないか。
- ・既にトマホークを買うなどの話が出ているが、米国産の軍備を買い足すだけでは、真の防衛強化にはならない。
- ・ウクライナ戦争などを参考に、シェルターを増やす検討も至急始めるべきだ。

・米国のシンクタンク CSIS のレポートによれば、日米が台湾を支援すれば、中国の台湾進攻は失敗する。ただ、日本が中立を守った際と、基地を貸さないケースでは侵攻は成功すると分析している。

- ・日本は台湾防衛に参加しろという米国の圧力ではないのか。
- ・米国は本気で台湾を防衛するのか。
- ・中国にとって台湾進攻のメリットは少ないと思う。台湾海峡の危機は戦争屋が危機を煽っているのではないか
- ・台湾にも、日本の参戦を疑問視する人が多いようだ。
- ・過日の選挙の敗北を受けて蔡英文総統が退くようだ。独立派が後退するのではないか。

- ・戦争屋は常に戦争を欲している。
- ・ウクライナ戦争でも軍産複合体は大儲けしている。
- ・ベトナム戦争でも南北両方に支援物資を出していた。
- ・アフガンも、米国はあたふたと撤退したが、わざと武器を置いてきたとの説もある。タリバンやISの手にわたり、紛争の種になるからだ。
- ・原始以来、戦争は続いている。現代も戦争があり、特殊な時代ではない。アフリカなどでは、報道はされないが、頻繁に争いが起こっている。

- ・明治維新では多くの日本人が独立を維持するために命を賭して戦った。
- ・その後も不平等条約の破棄のために戦い続けた。10%以上の軍事予算を組み、富国強兵を目指して頑張った。

- ・戦後、頑張ってきた経済面でも、半導体や原発など日本の得意分野も様々な事情から苦戦している。自動車分野でも、HPVでは他の追随を許さないトヨタだが、世界はEVの流れになっている。

・トヨタとして、あるいは日本として、トヨタ潰しとも言えるこの流れを食い止める方法はないのだろうか。

- ・日本がガソリンエンジンを死守してEVに対抗すれば、インド、中東、アフリカなど日本に追随する地域も出てくるのではないか。

・ガソリンエンジンとEVでは部品点数が全く違う。高い技術を持った日本の部品メーカーが壊滅してしまうのではないか。

- ・岸田政権は唐突に増税を言い出した。説明が足りない。
- ・安保三文書も内容は良いが、説明が足りないので国民はよく理解していない。
- ・サミットの準備で欧米を歴訪してよくやっている。
- ・いや、G7に仕えているだけだ。日本の国益を考えた外交になっていない。

以上